

## 1 工程@1円～知的障害者の労働現場

### 36： 窓を救え！

千葉 晃央

施設から、窓がなくなっている。もちろん、窓はある。しかし、窓の本来の目的を果たせているのか？という状況が起こっているのである。

窓は①採光の窓、②換気の窓、③排煙の窓、④消防（消火・救助・避難）活動の窓、これらの4つが建築基準法で定められている。こういった法律に基づいて、知的障害者の労働現場の建物は当然設計されている。他にも窓には、眺望の目的でも設置される。しかし、設計段階はそうであっても、その運用はどうであろうか。

#### 天気の話ができない

作業をしていると、手元を見ることが多い。集中すると周囲のことは忘れて、手元の作業に没頭することも多い。手や、首、目が疲れて、顔をあげる。そこには窓があり、外が見える。気付かない間に吹雪になっていることもあるし、虹がかかっていることもある。「うわ！虹やで！」「めっちゃ吹雪いているやん！なあ？」そんな声で、しばし手を止めてその日の天候をみんなで共有することもある。「曇ってきて、雨降り

そうだから、置き傘を持って帰ろう」そんな言葉を交わしながら、作業をする。特に雨の時、この頃はゲリラ豪雨もあり、天候の変化には敏感でなくてはならない。そうした危機状況を事前に予測するためには窓からの外の景色は欠かせない。

手元に集中すると目が疲れる。近いところにピントを合わせてばかりだった目を休めるためにも、窓から見える遠くの景色はありがたい。私の経験では、緑も多い景色に目も心も癒された。よく観ていた作業場から見える景色は、手前の近いところが低い土地で、奥に行けば行くほど高くなり山になっていた景色で、これは忘れられない。暑い日も、寒い日も、雨の日も、雪の日もその景色を見ながら、作業をした。

#### 刺激対策の分断

図書館にある自習スペースでは衝立がついているところも多い。そこで勉強をしていると、とても集中できる。時間がたちすぎて驚くこともある。逆に、目にいろんなものが飛び込んでくる環境だと、人はその景色に集中を切らされてしまう。漫画があ

れば、手を伸ばし、テレビがあると観たくなるのが人の性分かもしれない。そういう意味では、衝立などにより、視覚刺激を制限することは効果があるだろう。ここでの効果とは、つまり作業に集中し、作業の生産性をあげるための効果である。TEACH (Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children 自閉症及び関連するコミュニケーション障がいをもつ子どもたちのための治療と教育) が広がると、この支援方法をヒントに作業場でも視覚刺激の制限による利用者への働きかけが増えた。作業場の窓から見える幹線道路に、市バスが見えると、気を取られて、作業が進まない。そういうときにはもちろん作業の場所を窓からの景色が見えにくいところにした。バスが見えても影響を受けない方にそ

の場所での作業工程をしていただいたこともありました。それでも作業場の構造や作業しているものの大きさなどで、なかなかそれができないときもあります。そういう時をきっかけに窓に紙を貼る。そうすると作業に集中する。そうするとその作業が終わっても、窓の紙を取らず、そのままになる。そんな場面をよく見ました。それがその後には、ブラインドで遮られることも。

### 何も無い人工的な日常

こうした動きで、短期的な成果としては、作業能率は上がりました。ただ人は作業をするために仕事をしているのでは、ただのロボットです。職場に行き、職場の仲間と様々な経験を共有します。仕事を覚え



ること、ノルマを達成できることも仕事の喜びです。それと同じくらい、職場に行き職場の仲間とその日の天気、景色、風、窓から見える景色も共有し、コミュニケーションをとる楽しみ。そのきっかけにもなるのです。「今日はいつもと違う車が来ている」「ほんまや」そんな何気ない会話も含まれているのが日常と思うのですが、その機会は随分減っています。

暑さ対策による日よけも流行っています。そもそも日本の建物のガラスが薄いことも防音対策、暑さ・寒さ対策には厳しいと聞きます。とはいえ、夏は日差しが入ると熱いので日よけシートを窓の外に設置したりします。以前はよしずも使っていました。これらも、完全に窓からの景色を遮断するわけではありませんが、9割程度は見えなくなります。夏に着けると、しばらくするとそれが寒さ対策にもなるとか、そもそも外すのが大変！とそのまま1年を通じて設置されることも多いように思います。そうしたことで窓の採光、眺望という機能は失われています。

### 窓に目隠しを求められる福祉施設

それ以前に都市部の建物には、隣との距離が近いとすりガラスがはめられていて外が見えないこともあります。これは法律でも定められているようです。法律以外にも近隣から、施設の目隠しを求められることも増えました。黒いカーテンが3階で常にひかっている作業場も見たことがあり、息苦しい思いを感じたことを覚えています。

窓の換気という機能の側面では、その作

業場に花粉症の人がいるかないかにも左右されているように思います。本来、作業場はモノを作っているところなので、ホコリや粉塵はつきものです。その対策には窓を開けるとというのが基本です。しかし、春の季節は花粉が入ることを防ぐために窓を開けなくなります。そして、最近では温度設定ができるエアコンが普及し、窓を開けなくても年中、快適な温度を保つことができるようになりました。エアコンの邪魔をしないためにも、花粉はもちろん、**pm2.5**、黄砂が入ってこないためにも、ますます窓は開けなくなります。

排煙の窓は建物の上のあたりについていることが多いです。クルクルまわすハンドルが壁にあり、その上にある排煙窓が開くという仕組みもよく見てきました。この排



煙窓も普段使っていないくて、使おうと思うと壊れていて窓が開かないということもありました。では、壊れては困るから普段触らないでおこうとなるといざ必要な時に役に立たないということも起こりかねない。でも、壊れると構造的に難しく、高所作業をとまなう修理作業は高額になるとも聞きます。とはいえ、高所にあり、排煙を目的にするぐらいですから、喚気にはもってこいです。ただ難点は、高所にあるので開けっ放しで閉めるのを忘れてしまうということです。戸締りをして帰ろうとして、排煙窓が開いているということも少なくありません。そのため、戸締りの観点からついつい開けなくなるということも起こります。

様々な面から、「窓」は危機的状況です。労働者にとって、失われるものがあるから法律でも窓をわざわざ定めてき多と思うのですが…。皆さんの職場はいかがでしょう？

## BACK ISSUES

- 別れ 35 2018年12月
- 人生をかける意味があるか？ 34 2018年9月
- 業務の適正化はできるのか？ 33 2018年6月
- 安全衛生委員会 32 2018年3月

- 施設というコミュニティ 31 2017年12月
- 職場づくり 30 2017年9月
- 健康管理 29 2017年6月
- 音 28 2017年3月
- 救世主になりたい援助職 27 2016年12月
- 事件について 26 2016年9月
- クルマ社会と福祉政策 25 2016年6月
- 施設が求める「障害者像」はあるのか？ 24 2016年3月
- 連絡帳 23 2015年12月
- におい 22 2015年9月
- 作業着 21 2015年6月
- 食べる 20 2015年3月
- 通勤 19 2014年12月
- クスリの作用、人の作用 18 2014年9月
- 倫理観でかたづけられる暴力 17 2014年6月
- 触れる 16 2014年3月
- 対談企画「教育と福祉の連携を模索する」 2014年3月
- 情報の格差 15 2013年12月
- 20年前のノートから 14 2013年9月
- そうじのねらい 13 2013年6月
- 個別化の暗部 12 2013年3月
- グループワークの視点 11 2012年12月
- 実習生がやってきた！ 10 2012年9月
- 月曜日のせいやな 9 2012年6月
- 所得を決める福祉職？ 8 2012年3月
- 世界とつながる社会福祉現場 7 2011年12月
- この現場へのたどり着き方 6 2011年9月
- 障害を持つ友達と過ごすとは？巻末座談会 2011年9月
- 旅行がない！ 5 2011年6月
- 職員の脳内回路 4 2011年3月
- たかがガムテープ、されどガムテープ 3 2010年12月
- 利用者が仕事上の戦友 2 2010年9月
- 障害者自立支援法で不景気に！ 1 2010年6月